



映画でつながる。未来がはじまる。  
By UNITED PEOPLE

7 組 21 番 名前 園部 将治

【映画】

ポバテター・テング ～あなたの寄付の不都合な真実～

【レビュー】

私はこの映画を見て、現在行われている「援助」が不十分なものであることを知った。貧しい国の人々は気の毒な人々であり、守ってあげなければならないという間違えたメッセージが広がっているという内容が強く印象に残った。こういった先入観は、多くの人が無意識のうちに感じているものだと思うし、私自身もそうだと思う。しかし、私は相手のことをよく知らないままただ押しつけるだけの援助は間違っていると感じた。援助というのは大災害などが起ると、人々が本当に困っているときに行うべきものであるのに、それがなぜか生活手段の一部になってしまっているという。これではいままでも自立ができない。また、大国の市場で売れ残ったものが途上国の市場に流れ込み、地元産の農作物が売れなくなって仕事を失う人も多いという。これでは逆に人々を苦しめることになり、援助の意味がない。地元で太陽光発電設備を開発していた人たちも、NGOから無料のものが何枚も届いたせいで、自分たちのものは需要がなくなり、売れなくなってしまったという。こういった産業は援助産業と呼ばれているらしい。これらの援助がたとえ善意によるものだったとしても、自分たちの力で問題を解決しようとしている人たちに目を向けられないようなのでは駄目だと思う。人を助けるといふが、苦しめたり、競争が起こったりという矛盾が生じている。私は、寛大さだけではいけないという言葉が心に残った。貧しいというのは社会から隔離されてしまうことであり、大事なものは人々も自分たちと対等な存在として、社会とのつながりを持たせることであるという。私も周りに流されるだけでなく、何が正しいのかも自分で見極めて判断できるようにしていきたい。



映画でつながる。未来がはじまる。  
By UNITED PEOPLE

9組5番 名前 市川祐衣

【映画】

～ ホンター・インク 寄付金の不都合な真実～

【レビュー】

貧しい人々を「貧しい」という先入観で見えてしまうことが問題。  
それを見ることで心が痛み、厳しい貧困をなくす動きこそが先進国の使命だと感じるようになる。

問題はその援助が失敗していること

例) 豊かな国は自国の市場を守ろうとする→豊かな国 (=先進国) は国内の市場を活性化させる。

→そこで生産された物に余剰 (外国に輸出するだけの余裕) が生まれる。

→先進国としては「援助」として発展途上国への輸出を開始する。

→援助された発展途上国内の産業が先進国の援助によって圧迫されていく。

(発展途上国内の産業 < 先進国による援助)

→援助された発展途上国内の失業者が増加

→先進国が良かれと思って行った援助が「発展途上国が自立した経済を営む場」を奪い、「援助依存」から抜け出せないように仕向けてしまう。

ルワンダの大統領ポールカガメさんは言います

「援助をされればされるほど、受け手はますます自立できなくなるのです。

寄付や援助をしている人々は援助している自分に酔っているだけなのです。」と。

私はこの映画を観て、衝撃を受けました。

良心から生まれたはずの「援助」が、かえって悪影響を及ぼしてしまっていることに気づいたからです。

世間一般的には「援助」=「良いこと」だとされています。

アフリカなどの発展途上国への支援を求める広告やCMを一度は目にしたことがあるのではないのでしょうか。

でも立ち止まって考えてみてください。

寄付金が集まることで、現場の状況は大きく改善に向かっているのでしょうか。

一時的に改善したとしても、援助された食べ物や寄付金が底を着けば、また援助が必要になってしまいます。これがいわゆる「援助依存」なのです。援助が続く限り無限ループ状態のままです。

今発展途上国に必要なことは「援助」ではなく「自立」なのです。

このように、自ら知ろうとすれば今までの考え方が覆されることがあります。

テレビやネットのニュースをみて、それに流され続けるのではなく、自ら知ろうとする能動的な行動こそが、今必要とされている力なのではないのでしょうか。

今私たちが様々な分野を勉強しているのは、様々なことを判断するための材料集めのためだと思います。

周りに流されることなく、自分の目でその状況を把握し判断する力を養うためにも沢山のことに触れられる機会を大切にしていきたいです。